

業績ハイライト

グループ営業概況

当社グループは、営業体制の再構築による営業力強化と、経費削減効果の再投資に取り組み、中小企業向け貸出および預金の増強と役務収益の拡大に注力してまいりました。

お客さまとの接点の強化という方針のもと、あらたな営業拠点として、貸出業務特化型店舗(新大阪支店)、個人業務特化型店舗紀陽ハートフルプラザ(北野田支店、高松中央支店、橋本彩の台支店)、コンサルティングデスク(紀陽お城の前の相談室)を開設し、営業人員の拡充をはかるなど、お客さまとのFace to Faceによる接点の強化と充実した商品・サービスの提供に努めてまいりました。

この結果、グループ連結での損益につきましては、中小企業向け貸出や住宅ローンの残高が増加し、資金利益が順調に推移いたしました。また、より一層の資産健全化をすすめた結果、地域の景況感は悪化しておりますが、与信関連費用が改善し、金融再生法ベースの不良債権比率が低下いたしました。このように、本業部分がおおむね順調に推移するなか、一方では、全世界的な金融市場の混乱から有価証券関連損失を計上することとなりました。

以上により、連結経常収益は前期比2.0%減の877億64百万円、連結経常費用は前期比21.9%増の962億78百万円となり、連結経常損失を85億14百万円計上することとなりました。

しかしながら、事業再生への積極的取り組みや、与信ポートフォリオが改善したこと等により貸倒引当金戻入益が発生し、連結当期純利益を14億39百万円確保することができました。

なお、当社単体の業績につきましては、子銀行からの受取配当金などの収入により、営業収益が36億44百万円、経常利益が31億94百万円、当期純利益が31億86百万円となりました。

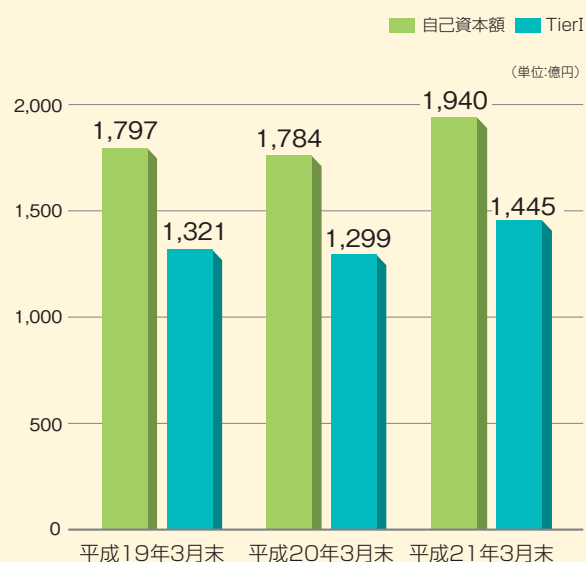
主要な経営指標

	(単位)	平成20年3月期	平成21年3月期
連結経常収益	百万円	89,558	87,764
連結経常利益	百万円	10,617	▲8,514
連結当期純利益	百万円	13,359	1,439
連結純資産	百万円	146,049	125,335
連結総資産	百万円	3,513,031	3,437,616
1株当たり純資産	円	148.12	120.13
1株当たり当期純利益	円	17.19	0.97
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	円	15.02	—
連結自己資本比率(第二基準)	%	10.65	10.96

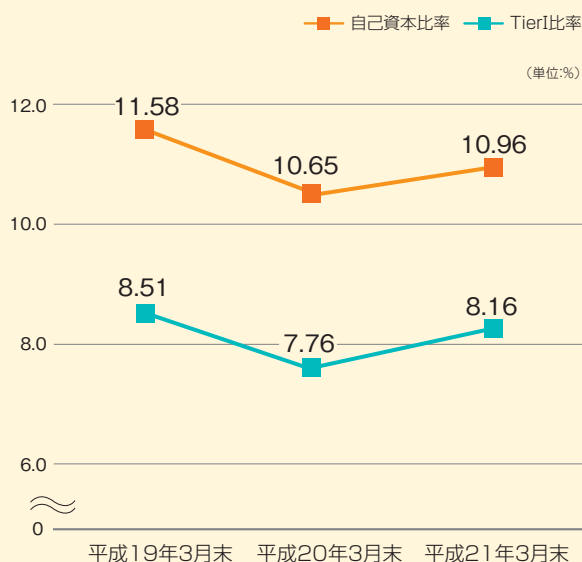
自己資本の状況

平成21年3月期においては、地元中小企業向け貸出金や住宅ローンの残高が順調に増加したことから、グループ連結でのリスクアセットは前期末比958億円増加いたしました。しかしながら、自己資本も前期末比156億円増加したことから、紀陽ホールディングスの連結自己資本比率(第二基準)は、10.96%(前期末比+0.31%)となりました。

■連結自己資本額の状況 紀陽ホールディングス連結



■連結自己資本比率の状況 紀陽ホールディングス連結



	平成19年3月末	平成20年3月末	平成21年3月末	平成20年3月末対比
自己資本額	1,797億円	1,784億円	1,940億円	156億円
うちTier I	1,321億円	1,299億円	1,445億円	146億円
うちTier II	476億円	484億円	498億円	14億円
リスクアセット	15,518億円	16,748億円	17,706億円	958億円
連結自己資本比率	11.58%	10.65%	10.96%	0.31%
連結Tier I比率	8.51%	7.76%	8.16%	0.4%
繰延税金資産額	290億円	320億円	429億円	109億円
Tier I対比	22.0%	24.6%	29.6%	5.0%

配当方針

利益配分に関しましては、銀行持株会社の公共性に鑑み、長期的に安定した経営基盤の確保や財務体質強化のために、適正な内部留保の充実をはかりつつ、安定的な配当を実施することを基本方針としております。

当期の配当につきましては、普通株式1株につき昨年同様年間3円とし、その他の各種優先株式については、それぞれの所定の優先配当金をお支払いさせていただきました。平成22年3月期については、第2次中期経営計画を着実に押し進めることで、普通株式年間3円の配当を安定的に実施するとともに、内部留保の充実をはかり、公的資金返済にむけた態勢整備を進めてまいります。